

思いがけない事故

事故は、**する側にしろ、される側にしろ、失うものはいっぱいあるが、得るものは1つもない**

(三重) (株)Y興運 N. Y

2016年10月半ば、だんだんと冬に近づいているせいか、**早朝4時は暗く肌寒かったのを覚えている。日報やタコグラフ**など必要な物を持ち、車庫に停まっているトラックに乗り込んだ。荷物を積む場所まで**1時間**と少しかかるが、**早めに車庫を出発した**為時間に余裕があった。最寄りの**コンビニ**へ寄って、アイスコーヒーとバナナを買い、**積み地で荷物を積み出発**。

辺りはまだ暗く走行する車もほとんど居なかった。私の前を走る車両も、私の後ろを走る車両もいなかった。ので**60キロ**ぐらいでゆっくり走行していた。片側二車線の道路だったので、のんびり走行する事ができた。

走行して30分ほど経過した時、約50メートル程先に停車しているであろう車のライトが見えた。その車はセダンタイプのクラウンで、**こちらの車線にUターン**をしようとしていた。クラウンが出てこないとも限らないので、クラウンを見つけた時点で、**「出てくるなよ。」**と言いながら1度も切る事なく**クラクションを鳴らし続けた**。

今になって思うと、きっとクラウンを運転していた人も**「こんな大きいトラックの前に飛び出すなんて自殺行為するか。」**と思っていたと思う。

このクラクションを聞いた後方を走行していた車両は、**危険だと察知**してくれたのか、**減速**して離れてくれた。皆が減速したのを機に、すごいスピードで追いついて行く車両もいたが、私は目の前のクラウンに集中していた。

そして、クラウンの前を通過する時、私は自分の目を疑った。**なんといきなりクラウンが、自車トラックの前に飛んできたのだ。**避けるにも既に接触している為避けられず、**接触したまま中央分離帯に乗り上げた**。

ここからは、ほぼ**スローモーション**のように自分に起きている事態が見えた。まず**視界が傾き**、買ったばかりの飲みかけのコーヒーが私に向かって飛んできた。衝撃により荷物が傾き、**10トンもあるこのトラックが横転**するのが分かった。

この時真っ先に、**家族の顔、産まれた孫、2年前に亡くなった親父の顔**が浮かんだ。**このまま死ぬのかと思った**。それと同時に身体に衝撃が走った。痛い、がまだ生きていたと思った私は、シートベルトを外し、私に**非がなかった事を証明してくれるであろうドライブレコーダーを引き抜いた**後、痛みで身体が動かなくなった。

目撃した人が呼んでくれたであろう救急隊の人に救出され、病院に運び込まれた。自宅から離れている病院だったので、自宅に近い病院に転院。色々な検査を受けたのち、**骨髄損傷**と診断を受けた。

警察から電話があり、衝撃の事実を知る事になった。あの時、相手車両が自ら飛び出してきたのではなく、**反対車線を走行していたトレーラーが自走不能になるほどの勢いでクラウンに追突し、クラウンが飛ばされたのだと。****普段からどれほど気をつけていたとしても、事故に巻き込まれる事もあるのだと**実感した事故であり、現に何十年とトラックのハンドルを握っていた私が初めての事故でした。

この事故により**左半身が不自由**になったが死者が出なかったのが不幸中の幸いでした。

あの時、**トレーラーは鉄骨を積んでいた為、急ブレーキをかけられなかった**んだと思います。私は、横転したトラックの中から見た景色が窓越しに見る、自分に迫ってくるトラックでした。

助かったんだと喜んだのも束の間、とどめをさされる思いでしたが、停まってくれたので安心しました。生きている事に安心しました。同業者の方々にも、くれぐれも気をつけてほしいと心から思います。

事故というのは、する側にしろ、される側にしろ、失うものはいっぱいあるが、得るものは1つもない事。改めて実感いたしました。